

春播結球白菜栽培に関する2, 3の試験

古田勝己・大田 謙一

(熊本県農業試験場・八代農業経営試験場)

FURUTA, K. and OOTA, J.

Studies on the Spring Chinese Cabbage.

暖地における春播結球白菜の播種期、育苗温度、品種問題と定植後のビニールトンネル管理法について2, 3の試験を行ったので報告する。

1. 播種期については八代郡鏡町において、長交春播極早生他3品種を12月21日と1月5日に播種した。30日間の温床育苗で定植後はビニールトンネル栽培である。試験結果では12月の早播でも抽苔株は全然なく全部完球した。しかし結球内容について見ると抽苔芯が若干長く、結球葉数も1月播きは50枚前後であるのに対して、12月播きは42枚で少くなっている。

2. 育苗温度については熊本市で6品種を1月10日に播種し、高温育苗区(最低10°C以上の温床)と低温育苗区(冷床)に処理した。定植時の苗の大きさは前者が7枚、後者が6枚で、定植後はトンネル栽培である。この試験結果は低温育苗でも一応結球するが、収穫期が4~5日遅れ、抽苔芯が長くなり結球葉数も少く不時抽苔の恐れがあつた。育苗時の低温の影響と思われる。

3. 両試験結果を通じて早播き等低温時の栽培には長交春播極早生、野崎春播交配1号が適し、1月播きには松島交配10号の多収品種も有望である。

4. 定植後の環境差として、温床育苗した苗をビニールトンネル区、ビニールマルチ区、無トンネル区と条件を変え、更にビニールトンネルの被覆期間を10日、17日、24日、31日に区を設け抽苔性、[熟期等について検討を行った。品種は長交春播極早生で1月10日播きである。この試験結果は図表で示した如く、無トンネル区でも抽苔株は全然なく収穫期が6~7日間遅れたのみで全部完球した。又ビニールマルチ区もトンネル区並の収穫期、収量を示した。しかし無ト

ンネル区の結球内部をみると早播の場合と同様抽苔芯が2~3cm長く、結球葉数も42枚で10枚位少なかつた。次にトンネルの被覆期間と結球葉数との関係を見ると、無トンネルの42枚に対して10日で49枚と急増し、17日で51枚に、それ以後は増加しなかつた。つまりトンネルの保温効果は定植後17日から20日頃が最つとも高い時期と思われる。

5. 以上要約すると12月早播きでも温床育苗の苗を用いると抽苔せずに完球するし、無トンネルの露地栽培でも抽苔せず完球することから、育苗時の保温管理が如何に重要であるかがうなずかれる。従つてトンネルを1ヶ月以上も被覆する必要はないわけで、山崎氏の報告にあるように定植後20~25日頃の花芽分化期と考え合せて、それ以前の定植直後の活着を促進し、初期生育を旺盛にするようなトンネルの利用や肥培管理がより重要だと考えられる。一方ビニールマルチングも好成绩を示したが、トンネル栽培のように多くの資材と労力を必要としないから、これの利用は生産費引下げにもなるし、栽培を容易にするものと思ふ。

